



2階では、昼は中庭の様子が見え、夜は布団をひいて寝るなどプライベートな空間となっている。

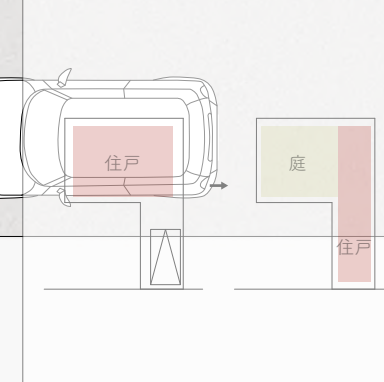
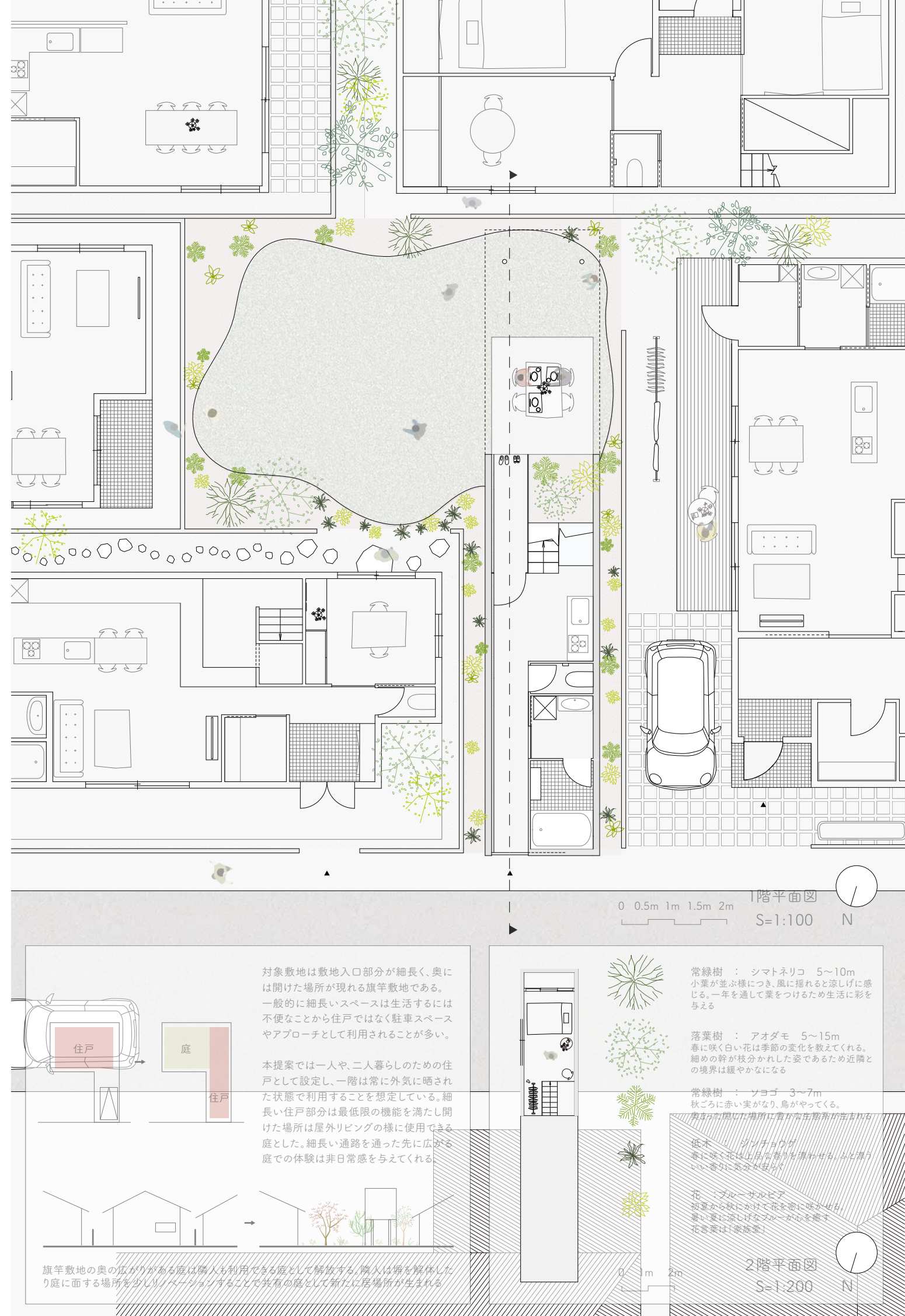
この庭の周辺には様々な植栽があり、庭と近隣を塀で遮断せず、植栽の大きさによって緩やかに繋いでいる。

幅、700mmの通路は、風呂、トイレ、キッチンにアクセスする生活の中心の空間となり、奥に広がる庭へ誘導する。

旗竿地の奥に行くくと広がる庭は、ここで暮らす人だけでなくお隣さんとのコミュニティの場としても機能する。

私たちの裏庭

うなぎの寝床のような細長い土間空間を抜けるとそこには私たちの庭が広がる。庭と近隣住戸との間に互いを隔てる塀を建てず、葉の密度や高さの異なる様々な種類の植物を配置することで柔らかな境界をつくる。通风、採光などが確保しにくい旗竿地の奥まった場所を隣人も使用することができる開放した庭とすることで隣人と私しか知らない特別な場所が生まれる。そんな自然に囲まれ鳥などの生き物がやってくる豊かな環境で育まれる隣人関係はおおらかなものとなるだろう。



対象敷地は敷地入口部分が細長く、奥には開けた場所が現れる旗竿敷地である。一般的に細長いスペースは生活するには不便なことから住戸ではなく駐車スペースやアプローチとして利用されることが多い。

本提案では一人や、二人暮らしのための住戸として設定し、一階は常に外気に晒された状態で利用することを想定している。細長い住戸部分は最低限の機能を満たし開けた場所は屋外リビングの様に使用できる庭とした。細長い通路を通った先に広がる庭での体験は非日常感を与えてくれる。

- 常緑樹：シマトネリコ 5~10m
小葉が星みずにつき、風に揺れると涼しげに感じる。一年を通して葉をつけるため生活に彩を与える
- 落葉樹：アオダモ 5~15m
春に咲く白い花は季節の変化を教えてくれる。細めの幹が枝分かれした姿であるため近隣との境界は緩やかなる
- 常緑樹：フヨウ 3~7m
秋ごろに赤い実がなり、鳥がやってくる。
- 低木：ジンチョウゲ
葉に咲く花は山吹色ながら花壇から、心細く白い香りに気が配る
- 花：ツクシメギ
初夏から咲いて花を赤に染め上げる。白い葉に染まればブルーカラーの花を添える(1葉挿し)

旗竿敷地の奥の広がりがある庭は隣人も利用できる庭として開放する。隣人は塀を解体したり庭に面する場所を少しリノベーションすることで共有の庭として新たに居場所が生まれる。



細長くも自然が入り込む土間空間



塀を一部解体し隣人と繋がる



2階から庭を眺める



断面図 S=1:100